

## 周産期セミオープンシステム事業について

### 1 事業の目的

練馬区の人口は70万人を超えるにもかかわらず、分娩を行う医療機関等は区内に8箇所しかなく、練馬区民の約6割は区外の医療機関等で出産している。このような状況を踏まえ、誰もが安心して子どもを産める環境を整えることを目的とする。

### 2 事業の内容

#### セミオープンシステム

日大練馬光が丘病院と地域の診療所・助産所が連携し、妊娠32週頃までは妊婦検診を診療所・助産所で受診し、以降は日大練馬光が丘病院で受診する。分娩の際は日大練馬光が丘病院に入院し、日大練馬光が丘病院の医師が分娩を扱う。

#### 産科ベッドの確保

連携する診療所・助産所の緊急時の分娩に対応するため、年間を通して1ベッドを確保する。

#### 産科医療連携の推進

区内の産科医療を充実するため、日大練馬光が丘病院を中心に地域の産科・産婦人科・助産所との連携を進める。また、妊婦を対象とする啓発事業を行う。

### 3 事業の開始

平成22年4月1日より委託を開始する。なお、日大練馬光が丘病院においては、昨年8月よりセミオープンシステムを試みている。

### 4 特色

妊婦検診と分娩の役割を分担することで、妊婦にとっては近くの診療所等で妊婦検診ができ、待ち時間の短縮に繋がり、病院にとっては検診を減らすことにより医師の負担軽減に繋がる。また、日大練馬光が丘病院と診療所・助産所が妊娠経過や検査結果の情報を共有することにより、早い時期から分娩に向けての安全な体制を築くことができる。

### 5 施設別・男女別・出生件数等

別紙2のとおり